

交通渋滞緩和の取り組みについて

菊陽町 都市整備部 建設課

1. はじめに

菊陽町は、雄大な阿蘇に源を発した白川中流域の平坦地にあり、熊本市の北東部に位置しています。

これまで、豊かな自然と田園環境、恵まれた立地条件を生かした生活都市として発展してきました。総面積は 37.46km²、人口は 43,000 人を超え、令和 2 年国勢調査では、県内市町村 2 位となる人口の伸び率(平成 27 年比+ 5.74%)を示し、元気のある町として注目されています。

豊かな阿蘇の伏流水や白川の恵みを受けた農業は、米、麦、野菜、花卉などが盛んで、特に、にんじんは国の産地指定を受け、「菊陽にんじん」ブランドで全国に出荷されています。

また、平成 10 年にオープンした「菊陽杉並木公園」、そして公園に隣接した「総合交流ターミナルさんふれあ」は、都市的地域と農村的地域の交流が図られるとともに、町民の憩いの場となっています。

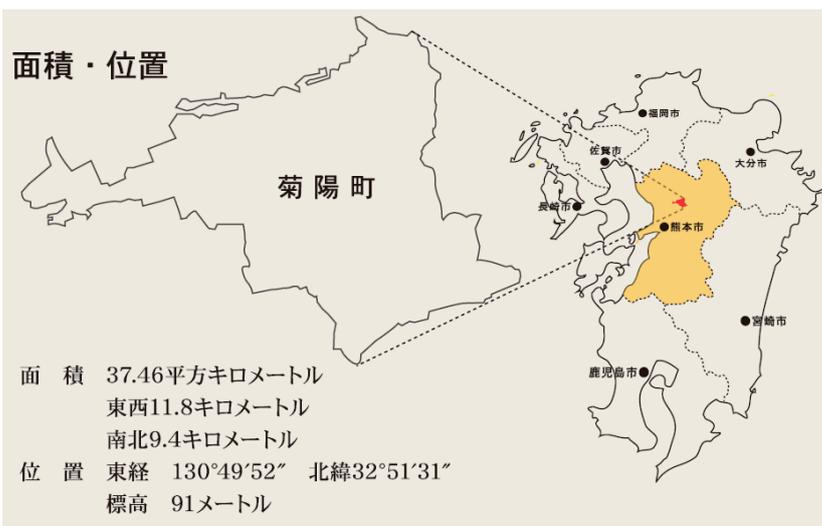
令和元年度からは菊陽杉並木公園を拡張し、災害時の避難拠点となる防災公園としての整備を実施しており、指定避難所となる総合体育館や屋外避難所となる多目的広場等を整備し、10 月の供用開始を予定しています。

この拡張整備事業により、菊陽杉並木公園周辺の拠点性が高まっています。

工業においては、最先端の技術を持つ企業が集積する工業団地を有しており、SONY や富士フイルムをはじめとする数多くの企業が立地しています。

また、世界最大の半導体受託製造会社である台湾の TSMC とソニーグループ、デンソーが設立した JASM (Japan

Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社) による新工場を第二原水工業団地へ建設中であり、今後も数多くの企業が立地するものと予想され、住み良さと働きやすさが両立する生活都市としてさらなる発展が期待されます。



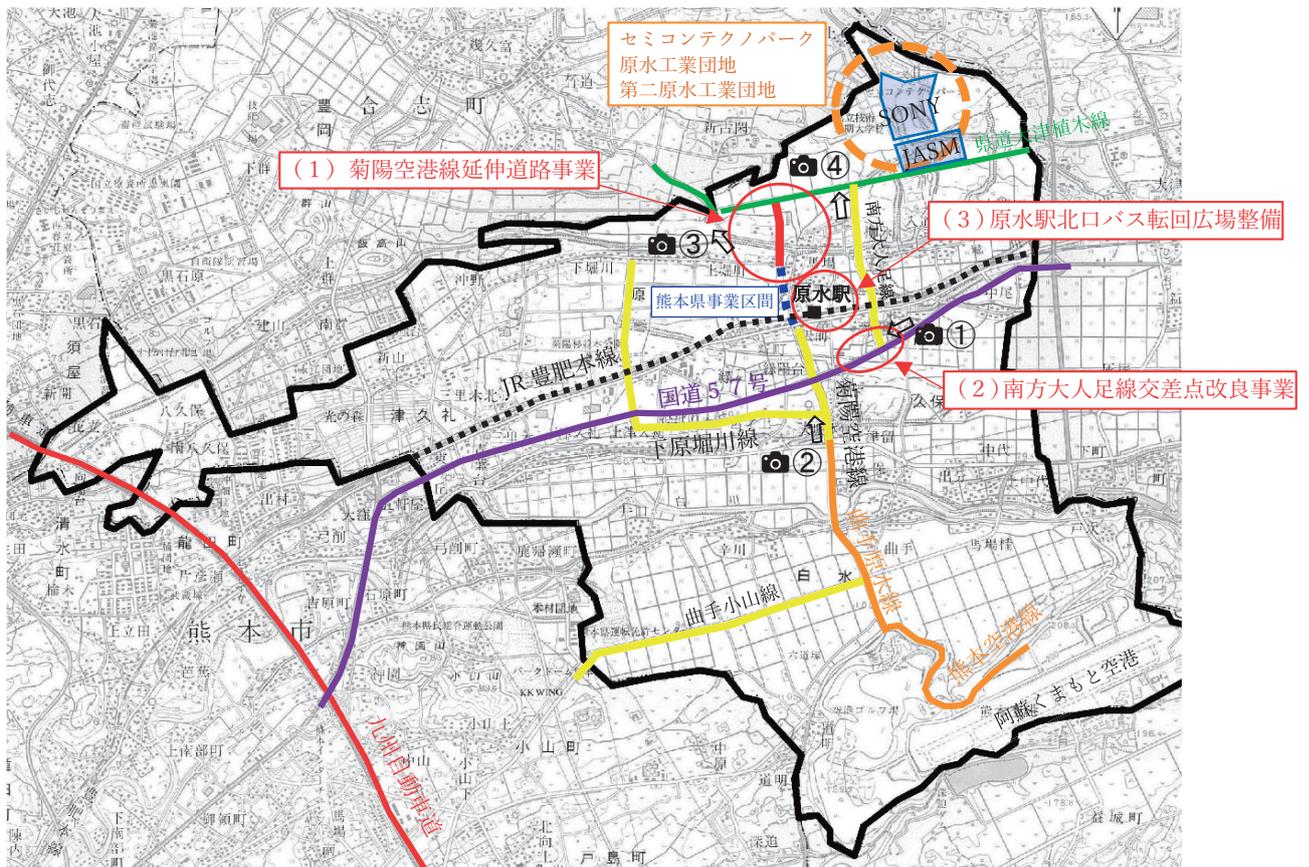
(菊陽町位置図)

2. セミコンテクノパーク周辺の渋滞状況について

菊陽町においては、先に述べた人口増加および企業立地などに伴い、町内全域で朝夕の通勤時間帯に交通渋滞が発生しており、渋滞対策は喫緊の課題となっています。

そのような中、菊陽町の北部に位置する県内でも有数の工場集積地である「セミコンテクノパーク」への企業立地により交通量は急激に増加しており、今後 JASM による新工場建設により、さらなる交通量の増加が予想されます。

現在、このセミコンテクノパーク周辺の道路状況は、アクセス道路不足により、通勤時間帯に慢性的な交通渋滞が発生しており、渋滞を避けた車両による生活道路への通行量が増加し、地域住民の生活にも大きな影響を及ぼしています。



3. 菊陽町の渋滞対策について

(1) 菊陽空港線延伸道路事業について

① 事業目的

菊陽空港線は、菊陽町中心部と阿蘇くまもと空港北側とを結ぶ幹線道路であり、菊陽町都市計画マスタープランでは骨格幹線道路として位置づけています。

菊陽空港線周辺は、セミコンテクノパークと国道57号との間を東西方向にJR豊肥本線が通っていることから、線路と立体交差する道路に交通が集中し、渋滞が発生している状況となっています。

また、線路と平面交差する踏切道は、近隣小中学校の通学路となっており、幅員が狭く、歩道もないため、通学路の安全性確保も問題になっています。

そのような中、セミコンテクノパーク周辺への新たなアクセス道路として周辺道路の交通量を分散することで、渋滞緩和と地域住民の生活の安全確保を図る目的から、早期完成を目指し、熊本県と役割分担を行い、菊陽空港線の整備に取り組んでいます。



小学生の朝の通学状況

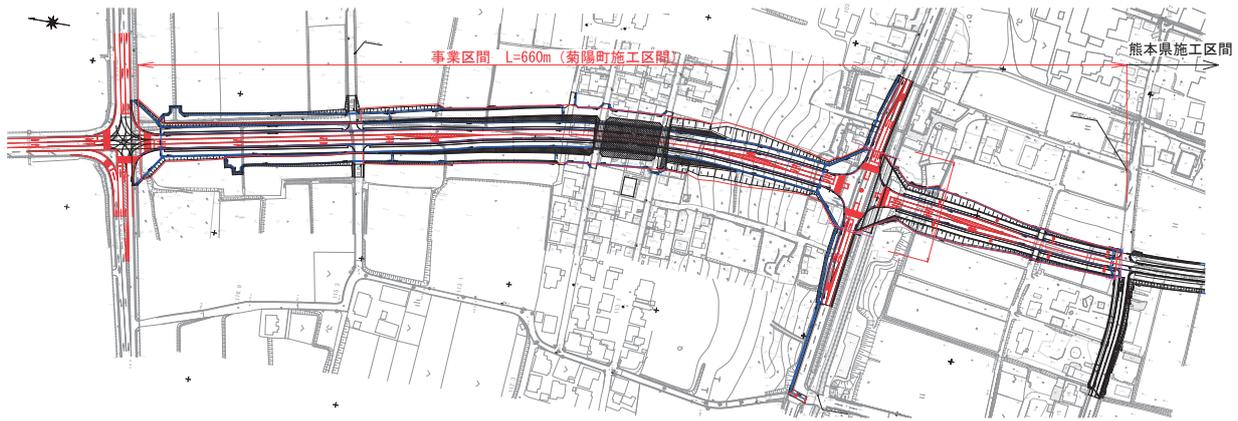
② 事業概要（菊陽町施工区間）

施行者：菊陽町
延長・規格：L=660m 4種2級（50 km/h）
幅員：W=16m
車線の数：2車線
事業期間：令和4年6月17日から令和9年3月31日まで
事業費：27億円

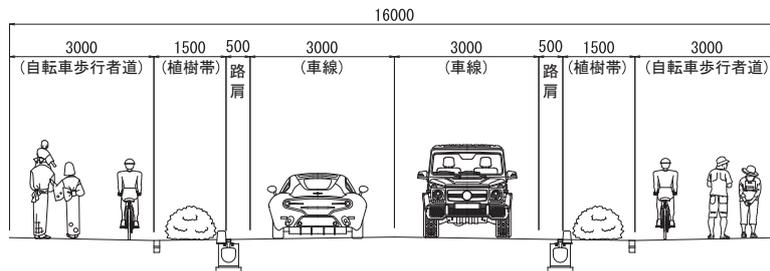
③ 事業効果

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・セミコンテクノパークから菊陽町中心部及び阿蘇くまもと空港方面へのアクセス強化・周辺道路の渋滞緩和・歩行者及び自転車の安全確保 |
|---|

計画平面図



標準断面図



(2) 南方大人足線交差点改良事業について

① 事業目的

南方大人足線は、国道 57 号とセミコンテクノパークを結ぶ通勤路となっており、国道 57 号との交差点は、朝の通勤時間帯では、国道 57 号からセミコンテクノパークへの通勤車両が、南方大人足線への左折車両の滞留により通行障害が発生しており、国道 57 号の渋滞が発生しています。

また、夕方の退勤時間帯では、南方大人足線にセミコンテクノパークから熊本市方面へ帰宅する車両が集中することで、国道 57 号への右折車両の滞留が原因となり渋滞が発生している状況です。

そのため、令和 4 年度より交差点改良事業に着手し、国土交通省と協議を重ね、朝の渋滞対策としては、国土交通省により、国道 57 号に左折専用レーンを整備していただくことになりました。

また、夕方の渋滞対策としては、菊陽町により、南方大人足線から国道 57 号への右折レーンを 1 車線から 2 車線に増設する計画とし、国土交通省の協力のもと、令和 6 年度までの早期完成を目指し取り組んでいます。

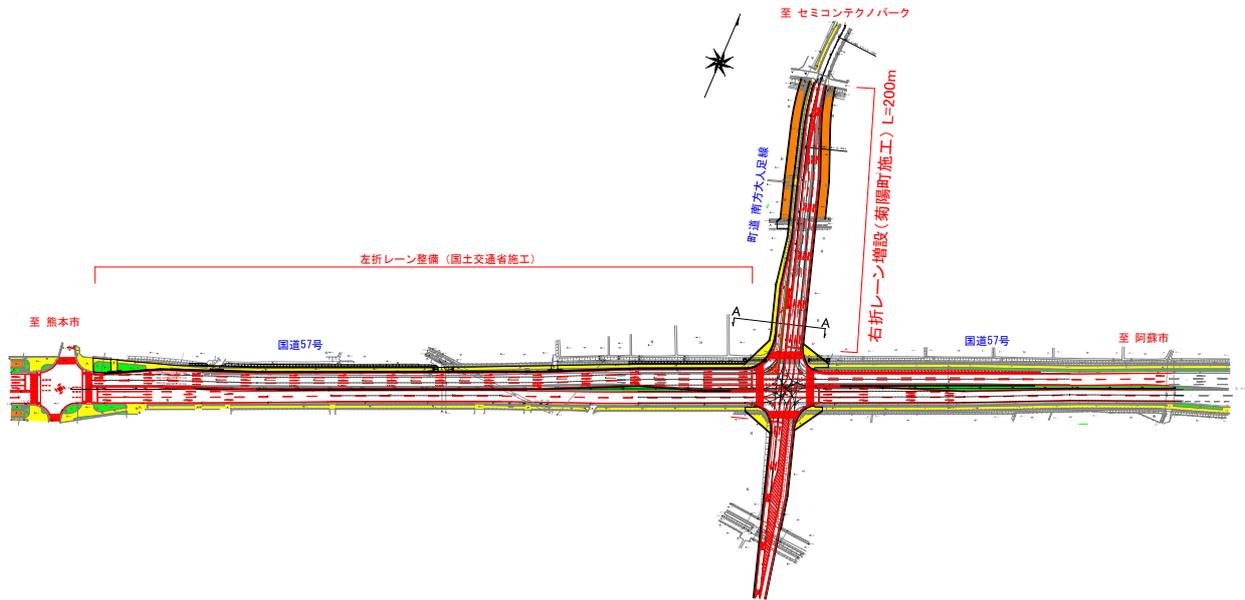


セミコンテクノパークからの帰宅車両による渋滞状況

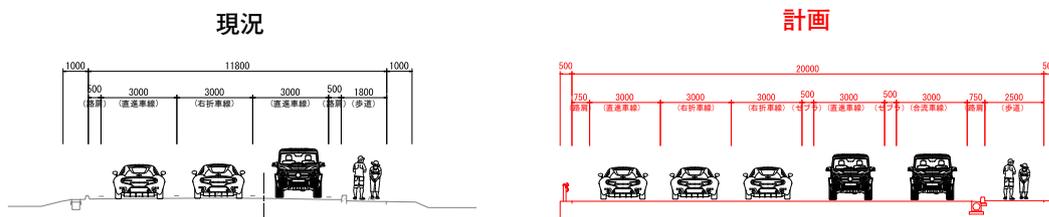
② 事業概要（菊陽町施工部）

施行者：菊陽町
 延長・規格：L=200m 3種3級（40 km/h）
 幅員：W=20m（右折レーン増設）
 事業期間：令和4年度から令和6年度まで
 事業費：1億8千万円

計画平面図



断面図（A-A）



③ 事業効果

- ・南方大人足線の滞留長の減少
- ・国道57号の滞留長の減少（国交省施工部）
- ・周辺道路の渋滞緩和
- ・短期間で速効性のある渋滞対策

(3) 原水駅北口バス転回広場整備事業について

① 事業目的

「セミコン通勤バス」は、菊陽町、合志市、熊本県、セミコンテクノパーク協議会で構成する「セミコン交通対策協議会」が、公共交通機関の整備と渋滞緩和による通勤環境の改善を目的として、JR原水駅とセミコンテクノパークを結び、朝19便、夕16便の「1日35便」を運行しています。

従来、発着地である原水駅北口のバス停は、片側1車線の町道沿いにあったため、歩道に利用者の長蛇の列ができ、小学生の通学時の安全性に支障をきたし、また、利用者にとっても雨天時には雨除

けもなく、乗降の安全性に支障をきたす状況となっていました。

これらの問題に対応するため、バス転回広場を整備し、通学する小学生や利用者の安全性を確保することに併せ、バス利用者の増加による渋滞対策を目的として整備を行い、令和5年5月15日より供用を開始しています。

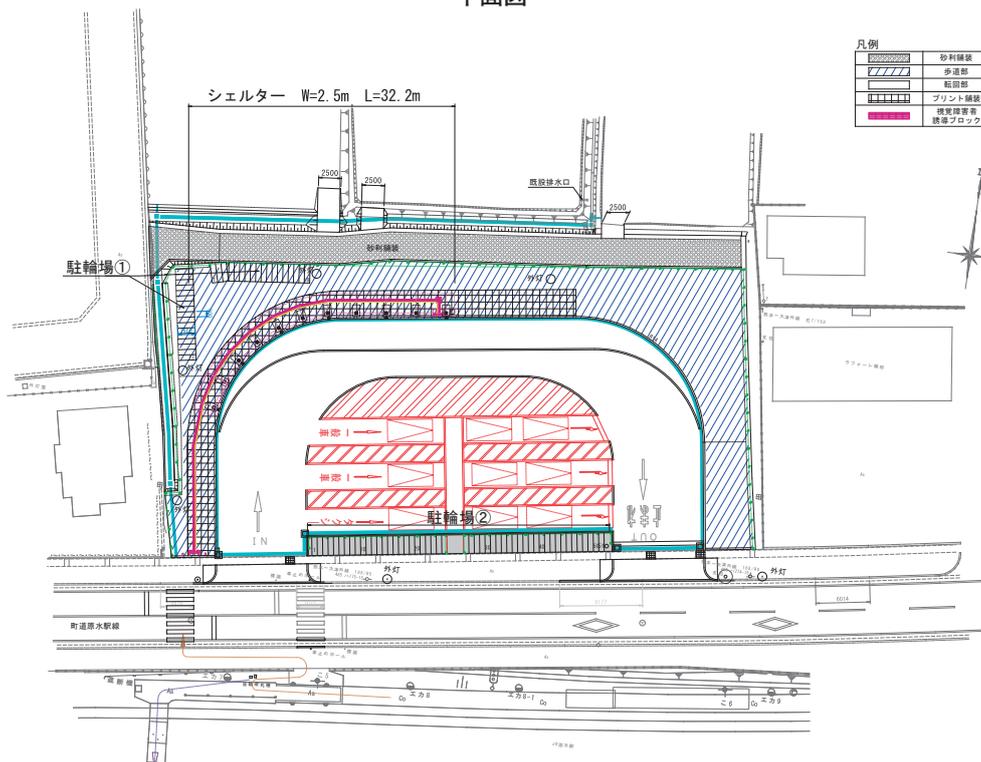


整備前の原水駅北口バス停留所の状況

② 事業概要

施行者：菊陽町
 整備面積：約 2,500 m²
 整備概要：転回部舗装 A=1,204 m²、歩道部舗装 A=678 m²
 バスシェルター L=32.2m W=2.5m、駐輪場
 事業期間：令和4年度から令和5年度まで（整備済み）
 事業費：8千3百万円

平面図



③ 事業効果

- ・利用者増加（通勤車両の減少）による渋滞対策
- ・小学生の通学時の安全性確保
- ・利用者の安全性確保
- ・利用者の利便性向上



令和5年5月15日の供用開始式典イベント



整備後の原水駅北口バス転回広場の状況

4. おわりに

現在の菊陽町において、交通渋滞対策は喫緊の課題となっており、ハード対策として上記の整備に取り組んでいます。

また、ソフト対策として、セミコン通勤バスのダイヤ改正や増便、セミコンテクノパーク立地企業のフレックスタイム制の導入や時差出勤の取り組みにより、渋滞の緩和につながっています。

国家プロジェクトであるJASMの新工場建設をはじめとする企業の立地には、道路ネットワークの整備が必要不可欠となり、国土交通省、熊本県と連携し、早期に対策を進めることが重要となります。

そうした中、国土交通省においては中九州横断道路の整備、熊本県においては県道大津植木線の多車線化をはじめとする道路整備を進めていただいております。

菊陽町においても、渋滞緩和と地域住民の生活の安全性を確保するため、国土交通省や熊本県の支援をいただきながら、立地企業と一体となり、複合的に渋滞対策に取り組んでいきたいと考えています。